

夫が亡くなり
女手一つで子供を育ててきたけれど
いよいよ生活が苦しくなりました。
麓の村で一番生活に余裕のある弥吉さんに
助けを求めました。

…あの、本当に助けて頂けるんですか？

もちろんんだ！
オラ、貯えだけはいっぱいあるんだ
そ、その代わりに…な？

家族が食べていけるだけの援助…
その代わりに要求されたのは
私の身体でした。

…分かりました
お受けいたします

！ほ、ホントだか？
いやあ、うれしいなあ♡
任せてけろ、しっかり面倒見てやるからな♡

（あなた、ごめんなさい…
でも私の心はアナタだけの
ものだから許して…）

こうして、私は弥吉さんのモノになりました。

弥吉さんは女性と床に入るのは
久しぶりだったらしく、
まるで赤子のように私の乳房に
吸い付いてきました。

キエちゃんのおっぱい……♡
デカくてふわふわでたまんねえなあ……♡

……んっ……♡

はあ

とってもいやらしい舌づかいで
私の乳首を舐め回しながら
右手で私の乳房を鷲掴んで
感触をじっくりと楽しんでます。

荒い鼻息が乳房に当たり
弥吉さんが相当興奮しているのが分かります。

はあ

もっっ

もっっ

ちゅっ

ちゅっ

キエちゃんはどごもがしゅも
イヤらしいべ♡

そ、そんなこと……あ♡

弥吉さんが昔から私の事を
いやらしい目で見ているのは気付いていました。
会うたびに私の胸やお尻に
向けられていたじつとりとした視線…
厭でも自分がオンナとして
見られていることが分かってしまいました。

弥吉さんの口臭は少しきつかったけれど、
じっくりとお互いの唾液を交換していると
頭がぼうつとしてきました…

んむちゅ…♡今日は絶対帰さねえからな…♡
いっぱいおまんこしよな♡

…んっ♡…♡はい…♡

おんち♡

んっ♡

おんち♡

は…♡

♡

夫と最後に接吻をしたのは
いつだっただろう…

んっ♡

おんち♡

おんち♡

んっ♡

んっ♡

オラ、

もうこんななんなっちゃまったべ♡

ッ!
(嘘…、なんて大ききさなの…)

ズッ♡

ビクッ

(い)

セクッ

キキ…

キキ…

(い)

弥吉さんが私の目の前で
おチンポをぶらぶらと揺らし、
まるで自分の雄としての力を
私に誇示するように見せつけてきます。

弥吉さんのモノは途轍もない大ききさでした。
長さも太さも夫のモノとは比べものにならない、
女を啼かせる為だけにあるような立派なおチンポ…

これからコイツで
キエちゃんをたっぷり悦ばせてやるからな♡
覚悟してくれ…♡

い

ふ

口で弥吉さんのモノを丁寧に奉仕します。
むせかえりそうな男性の香りがする
顎が外れそうな程の巨根を口いっぱい
頬張り、私の唾液でしっかりと濡らします。

ムソッ

私の口淫を満足げに眺める弥吉さん。
これからこの凶悪なおチンポで
貫かれてしまうのかと思うと
私は少し不安が込み上げてきました。

んっ…♡きもひいいれふか…?
(気持ちいいですか?)

おっ…おほっ…♡さ、最高だあ♡
(うへへ…♡あのキエちゃんが
下品なしゃぶり顔晒して
オラのチンポをしゃぶってるべ♡)

んっ♡

んっ♡んむっ♡
(ああ…こんな大きなモノが
私の中に入ってくるのね…)

んっ♡

んっ♡



恋人のように手をしっかりと繋ぎ、
いよいよ抱かれる時が来ました。
弥吉さんのおチンポは既にパンパンに膨張し、
私のおマンコに早く入りたいと急いでいます。

あ、あのっ…
出すときは外でお願いします…

今更感じる罪悪感…
あの子たちを食べさせる為とは言え、
こんな不貞行為…許される筈がありません。

分かってる分かってる…
そ、それじゃあいくぞ…♡

…っ…はい、
いらしてください…♡



はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

はま♡

おっ…♡おふう…♡
キエちゃんのカ、キツキツだあ…♡

はっ

あ♡

あっ♡はあッ…♡
おっき…い♡

は…

はあ

はっ♡

はっ♡

キエちゃんがまさか
こんなスケベな肉穴持ってたとはなあ♡

…ッすけべ、なんて
そんな…あっ♡

はっ♡

はっ♡

それじゃ、いくぞお♡

弥吉さんと一つに繋がった瞬間
全身に快感が駆け巡りました。
おチンポのあまりの大きさに
膣の形が変わっているのが
はっきりと分かります。

この日、私は初めて夫以外の男の人に抱かれました。夫とはまるで違う、荒々しく自分勝手な腰使い…

こんな日が来ねえかと
オラずつと待つてたんだッ♡
この身体はもうオラのもんだッ
村の誰にも身体を許すんでねえぞッ

は、はいっ♡あんッ♡

雌を屈服させるための凶悪な突きに
意識が飛びそうになるのを
必死に堪えます。



私が弥吉さんの上に跨り
懸命に腰を振っていると、
弥吉さんに限界が訪れました。

あぁ♡

あ♡

あ、あぁ…♡
いくぞ…グッ、ウウ…♡

グッ♡

あ♡

あ♡

あ♡

うおっ…そろそろイキそうだ…ッ

あ♡

あ♡

はあ♡
そ、外にお願いします♡

あ♡

そして…

あ♡

あ♡



ぐおおッ……！おうッ♡

おおお

とんちん

あーんッ！！

ああんッ♡

びんぽんぽん

びんぽんぽん

びんぽんぽん

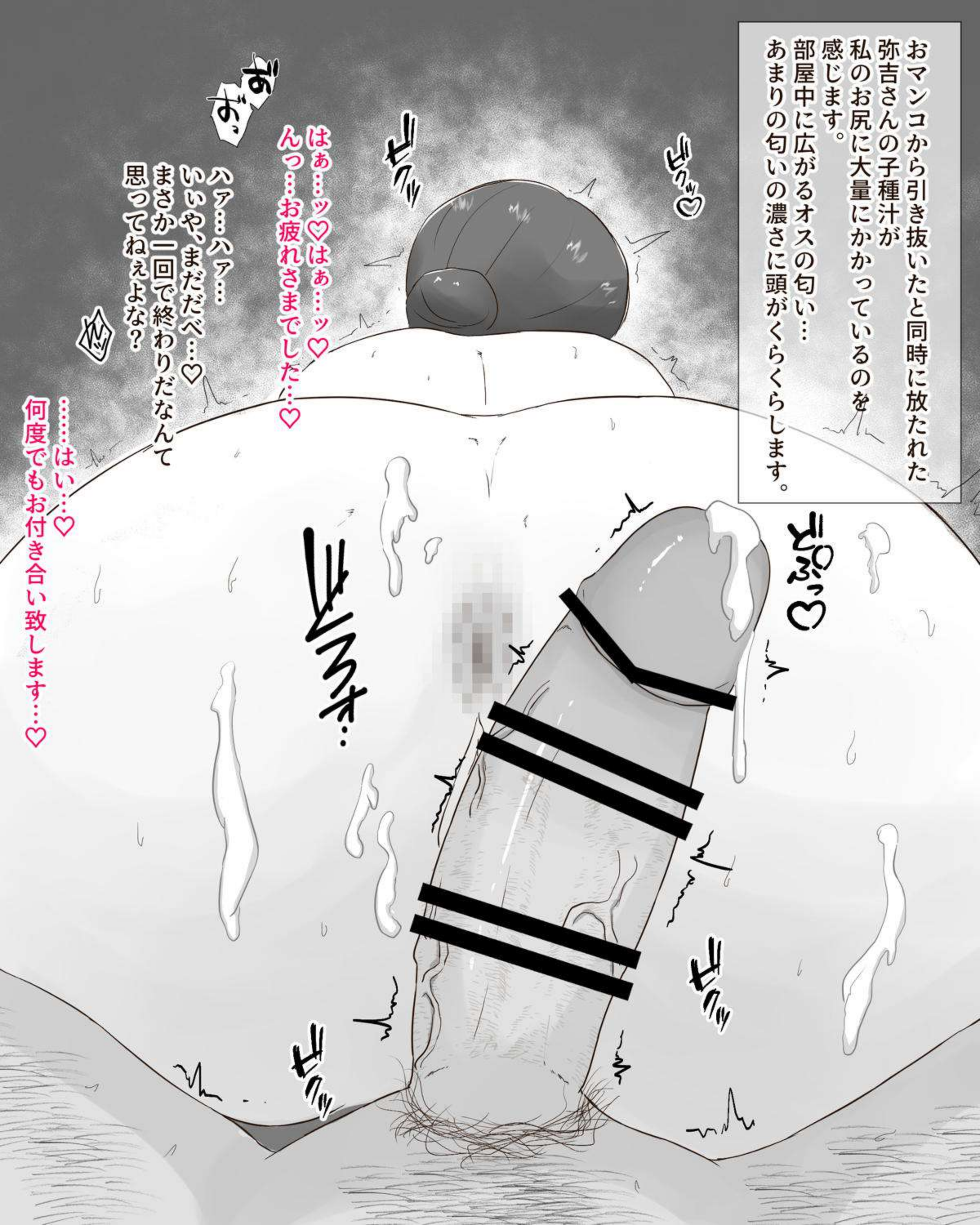


おマンコから引き抜いたと同時に放たれた
弥吉さんの子種汁が
私のお尻に大量にかかっているのを
感じます。
部屋中に広がるオスの匂い：
あまりの匂いの濃さに頭がくらくらします。

はあ……♡はあ……♡
んっ……お疲れさまでした……♡

ハア……ハア……
いや、まだだべ……♡
まさか一回で終わりだなんて
思ってたねえよな？

……はい……♡
何度でもお付き合います……♡



弥吉さんは飽きることなく
一心不乱に私の身体を貪ります。

あーっ

あーっ
キエちゃんツ
やっぱり中に出させてくれえツ♡

はあ♡

あんツ♡ダメです…ツ♡
それだけはダメ…ツあぁツ♡♡♡

あん

一度抱いたことで
私に対する所有欲が湧いたのか
何度も中出しを懇願されます。

おまんこ

種付けを断るたびに
おまんこを激しく犯し
私を懲らしめてきます。

おまんこ

だ…おッ♡おッ♡
だ…めえ…ツ♡♡♡

おまんこ

おまんこ♡



キエちゃんッ
オラのややこ産んでけろッ!

あっ♡あんッ♡
か、堪忍して…くっださいッ…♡

いいでねえか!オラたちもう
こんなはずっぽしハメまくった仲だべ?

でッ、でも…私は
あの人の妻なんですッ♡

…ッ!くそッ今はオラのオンナだべ!?

あ…ん…あ…ん…

あ…

はま♡

あ…

あッ♡待って♡
そんなに激しく…ッ♡あんッ♡
あぁっ♡

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

あ…ん…

不意に弥吉さんの腰がピタリと止まりました。

：じゃあ援助の話は無かったことに
するしかねえかもな

そ、そんな…ッ！
話が違います…

オラだって無関係の家族のために
これから身銭を切っていくんだ、
それくらい善処はしてくれても
いいと思うんだけどな？

…でも…ッ



！へへっ♡遂に言ったなッ♡
ホラ、ドコに出してほしいんだッ

意地悪な人…
あくまで私の口から
「弥吉さんの子を孕みたい」と言わせたいのです。

あつ♡キエの、おマンコに
弥吉さんの子種汁お出しになって下さい♡♡♡

あつ♡



はま

っ

はま

子供はッ？

おッ♡♡おッ♡♡
…ッ…弥吉さんの子供
産ませてください♡♡♡

おッ♡♡



あつ♡



おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ

おまんこ



キエちゃんは軽いから
簡単に持ち上げられるべ♡

いやっ...恥ずかしい...♡

あ

は...

今更カマトトぶつても遅いべ♡
よく見る、オラとキエちゃんが
しっかり繋がってるトコロをよ♡

弥吉さんの射精から絶対に逃げられないよう
抱え上げられました。
股を思い切り開かされ、弥吉さんのおチンポが
おマンコにしっかりと突き刺さっているの
を見せつけられます。

ああ...凄い...♡
あんなに大きなのが私のナカに...♡

へへっ♡オラがオンナの極みに
連れてってやっからな♡
もう戻れねえぞ...♡

グズ

は

ぬち♡

ぬち♡

ぬち♡

は...





母さんが弥吉さんの所へ行ってくると
言っただけ、数刻も帰ってこない。
心配になったので迎えに来てみたんだけど…

…?母さんの声?
弥吉さんと何してるんだ?

恐る恐る戸をそっと引いて
中を覗いてみると…



こりやあええ肉壺だあ♡♡
ほれッ♡ほれッ♡

んおおっ♡これ、深い…ッ♡

あッ

あッ

あッ

こうやって奥をガンガン突いちまえば
キエちゃんも孕みたがりの
ただのメス猿になっちまうんだベッ♡

グッ

グッ

グッ

グッ♡

グッ

グッ♡

ああッ♡ダメっ♡ダメっ♡
これ奥までキテるっ♡

グッ

グッ



眼前に飛び込んできたのは
弥吉さんと母さんがまぐわっている姿だった。
村の子からその知識だけは与えられていたけど
実際に男女の交わりを目にするのは初めてだった。
赤子のように抱え上げられながら
下品な雄たけびを上げる母さん……
そんな……あり得ない……
しかし脳が理解することを拒否しても
目の前の現実には進行していく……



ハアツハアツ
ぐおお…ツツ！そろそろイくぞ…ツツ！

嘘だ…母さんそれはダメだ…！

あひツ♡あんツ♡あツ♡…ぐ…ツ…♡
や、やっぱりナカはやめ…ツツ！

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



夥しい量の弥吉さんの子種がぶちまけられ、入りきらなかったモノが溢れでてきます。

うお…あ…ツ
中出し、決めたぞお…♡
オラの子種がキエちゃんのナカに…ツ♡

…ツ♡あ…おツ♡
おお…ツ♡

年甲斐もなく派手に気を遣ってしまった私は
下品な声を隠すこともできません。
オンナとしての極みに至った感覚が
はつきりとありました。

キエちゃん、イッたんだな…♡
オラのチンポ、気ン持ちええだろ？

あ…♡は、い…♡

こーんただ身体の相性いいんだ
オラとキエちゃん
ええ夫婦になるだな♡

ドクッ
ドクッ

シラッオ!

は。

は。

は。

は。

は。

は。

おめえさんは誰のモンだッ?

んッ♡んぶっ♡弥吉さんのモノれふっ♡

嫁なら旦那のチンポしっかり奉仕しねえとな?

っ♡ふあい♡
お口でしっかり♡奉仕しますっ♡

(くう〜ッ)
あのキエちゃんが遂にオラのモンに…♡
村の男ならみんな狙ってたオンナが…!)

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡

んッ♡



ああッ…そろそろ出すぞ…
全部飲めよ…ッ

どうぞっ♡キエのお口に
出してくださいっ♡

キエ

キエ

ニチャキ

ニチャキ

ニチャキ

ぐ…ウウ…!

キエ

キエ

キエ



うおッ…♡お

♡おッ…♡お

おッ…♡お

おッ…♡お

おッ…♡お

おッ…♡お

おッ…♡お



う…ッふうッ…♡
…へへっ♡いい顔してんなあ、キエちゃん♡
下品なメスの顔って感じだ…♡

んッ…♡ゴク…♡ゴク…♡

弥吉さんの子種が喉を通って
胃に落ちていくのを感じます。
ねっとり絡みつくような濃いモノが
まるで私を身体の内側から犯すように…

たまんねえ…♡キエちゃんは
最高の雌だ♡間違いないねえ♡

はあ

ふー…

ゴクッ
ゴクッ

ゴクッ
ゴクッ

はあ

一度中出しをして私の味を占めた弥吉さんは
すっかり亭主関白です。

オラツ！ここがいいんだベツ！？
キエはここが弱いんだろツ

あっ♡んんツ♡あっ♡
は、はいい♡

まるで野犬の交尾のように
後ろからガンガン突かれ続け
新しい子種が送り込まれる度に
膣内からは入りきらなかった子種汁が
どぼどぼと零れます。

もう何度胎内で射精されたか分かりません。
私が気を遣うとそれを罰するように子種を
撒き散らかされ、
まるで弥吉さんの掌の上にいるようです。

またイクんだな♡
さっさと気持よくなっつけ♡

ま、またイク…ツ♡い、グ…ツ♡
おおツ♡おお♡おお♡

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

あ、あ

ズズズ

あ

あ

は

い

ふ

あ

あ

あ

あ

溢れ出るほどの子種を受け止めながら
弥吉さんからありもしない下品な疑惑の
言葉を浴びせられる母さん。
そんな筈ない……！
母さんはそんな人の筈が……！

全くツ
こんなスケベな肉身体中に付けて
外ほつつき歩きやがってツ
見るたびにマラが疼いて
仕方なかったんだ！
ホントはオラを誘惑してたんだろツ

おおっ♡そ、そんな……ちがッ♡

オオニ♡

あ

あ



まーだカマトトぶるようなこと言うのかッ
してたんだろッ

やっぱりなッ♡オラは知ってたんだッ
キエちゃんは今孕みたがりの
ドスケベ淫乱オンナだって♡
もっと早くねんごろしとけば良かっただっ♡

は、はひいッ♡
してましたあッ♡
キエはスケベな女ですッ♡♡♡

…嘘だ…母さん、嘘だと言ってよ…

オレニ♡

おふい

おふい



おおツ…♡そろそろ最後だッ
デカいのかますぞ…ッ

弥吉さんが最後の射精の準備に入ります。
今までより一層腰使いが荒くなり
私の奥の奥まで掘り進んでいきます。

おおそうかッ♡
んじゃあ夫婦で派手にイッちまうか♡
ほら、上手におねだりしてみれッ♡

ズボッ

ハチュッ♡

おッ♡いい…ぎぎ…ッ♡
私も…もう、イキま、ス…ッ♡

アッ♡はいッ♡あなたッ♡
イカせてください♡♡
この淫らな女に
最後のとどめを差して下さい♡♡

ハチュッ♡

ハチュッ♡

ズボッ

ズボッ

ズボッ

よおしいくぞ…ッ

無限にも感じられる弥吉さんの射精…
太く長い肉棒から母さんの子宮に
子種を一気に注ぎ込んでいます。

今、目の前で絶頂の最中の女性は
自分たちのために身体を張っている
「母親」などではなく
一本のチンポに屈した卑猥で淫らな
「メス」なんだと感じた時、
自分の下腹部が痛いほど硬くなっていたことに
初めて気付いた…



ツふうー♡出た出た♡
流石に今日は打ち止めだ♡
キエ、愛してるぞ…♡

…は、…はい…♡
私も…♡す…♡ツ♡アナタ…♡♡

グンクン…





はー！！

はー！！

わ、私…達を
たすけて…♡私、たち…♡

はー！！

母さんは壊れた絡繰りのように同じ言葉を
繰り返している。父さんや家族への後ろめたさ
母親としての責任…その全てを
オンナとしての悦びが塗り替えていった…

はー！！

はー！！

任せとけ、キエも子供たちも
みーんな、幸せにしてやるだよ…♡

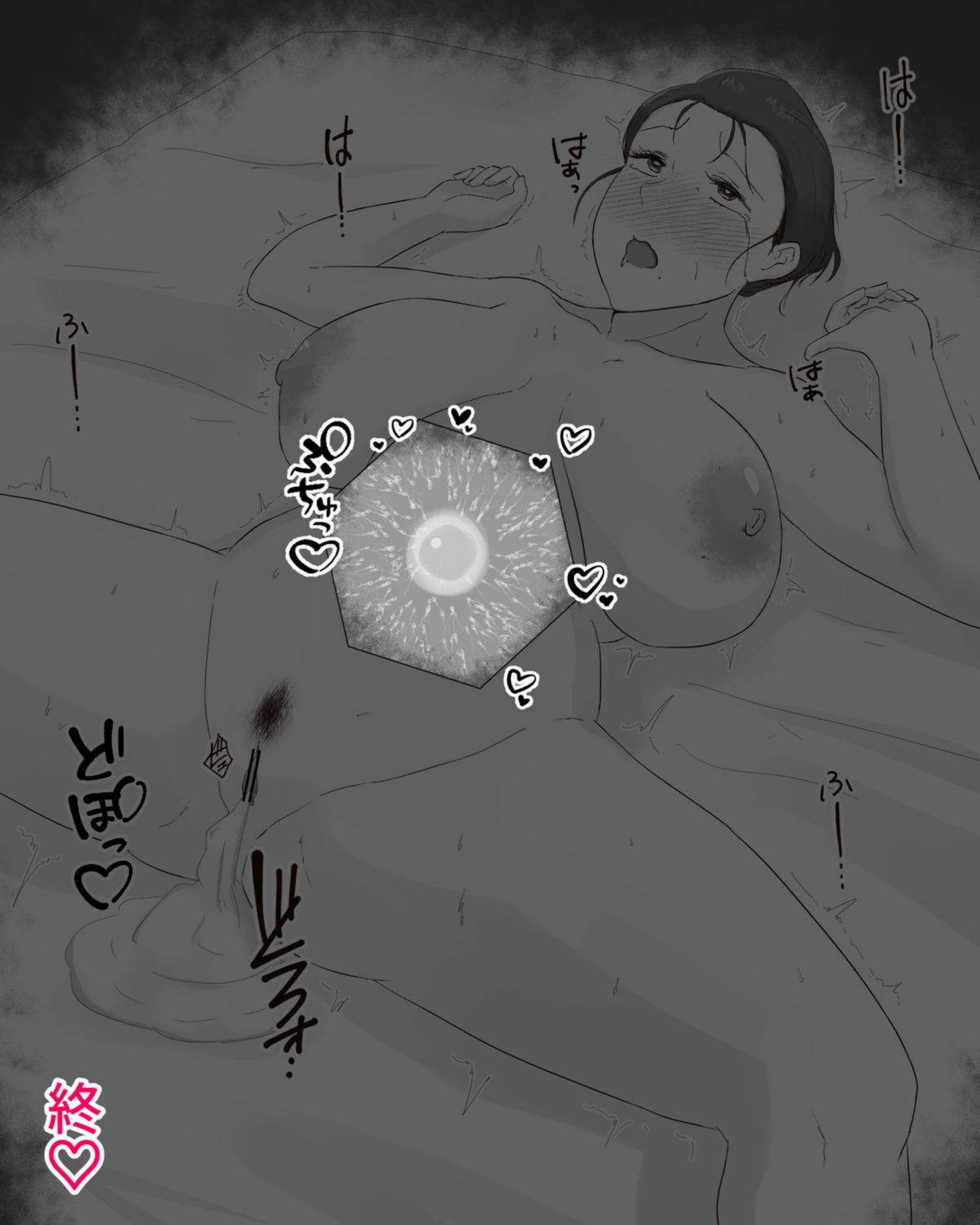
はー！！

は、…い…♡
お願いします…アナタ…♡

(淫乱、メス猿…何と呼ばれてもいい…
私はあの子たちが守られればそれで…♡)

はー！！

はー！！



はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

はー!!

Biting

天竺心

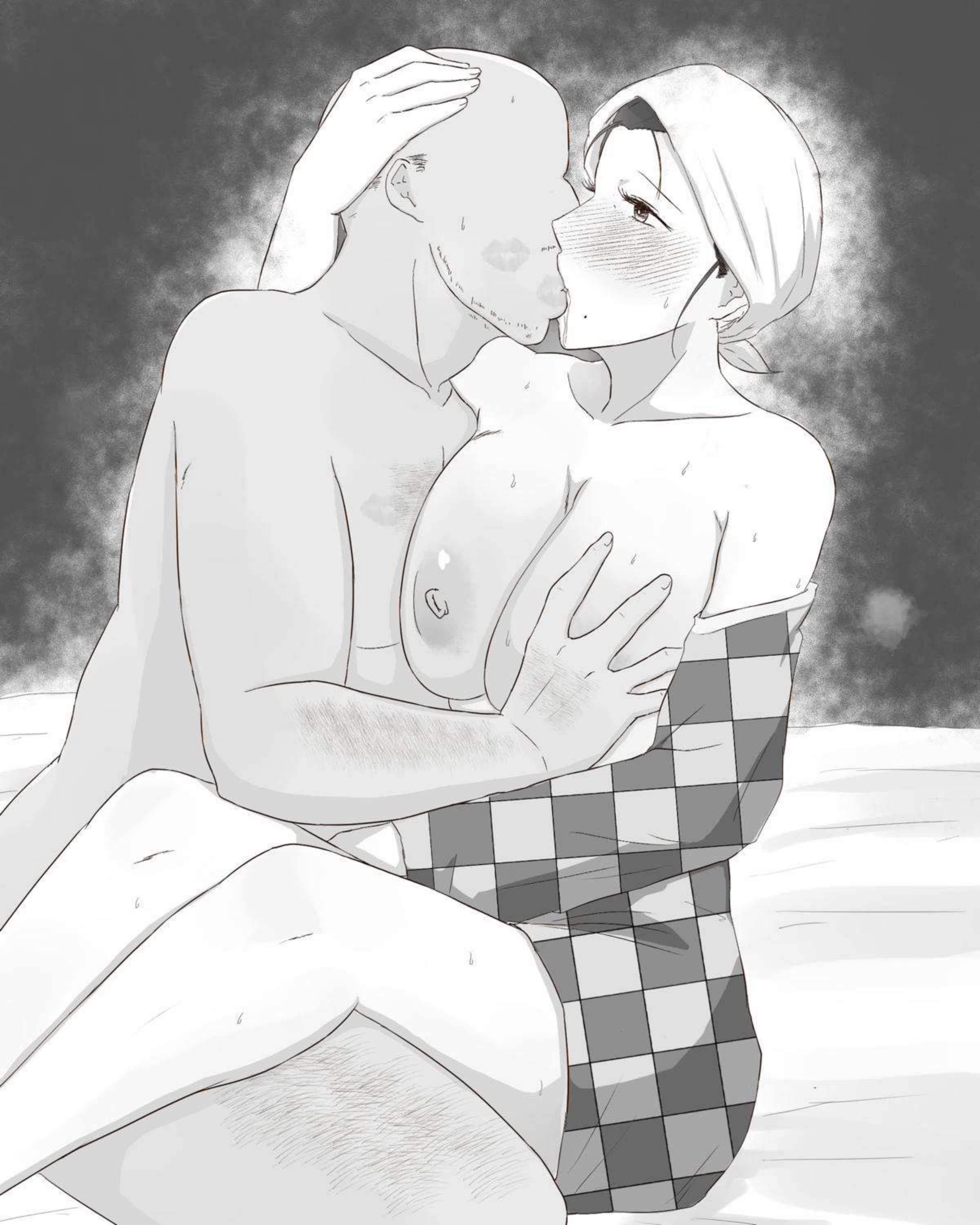
クニクニ

はー!!

天竺心



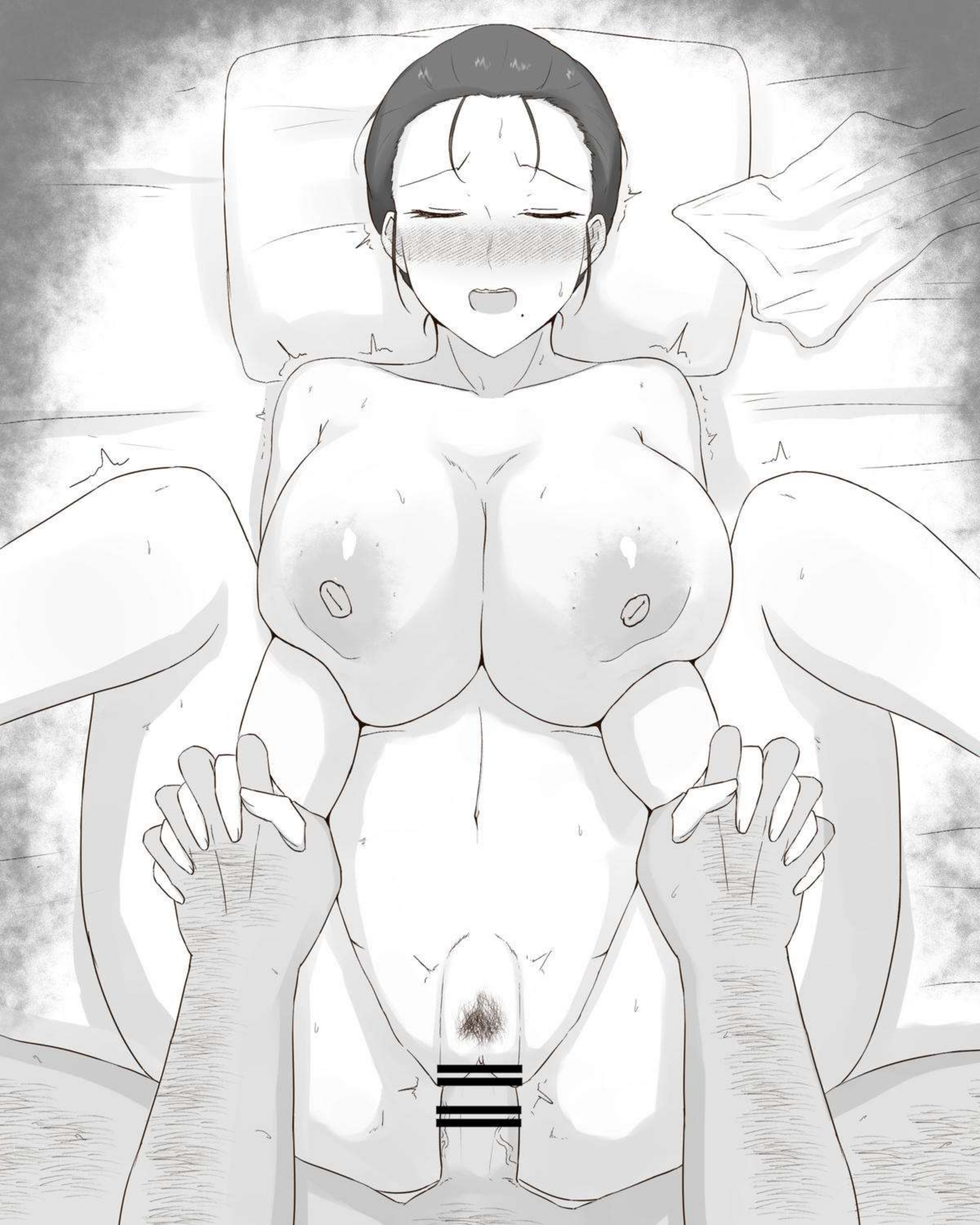




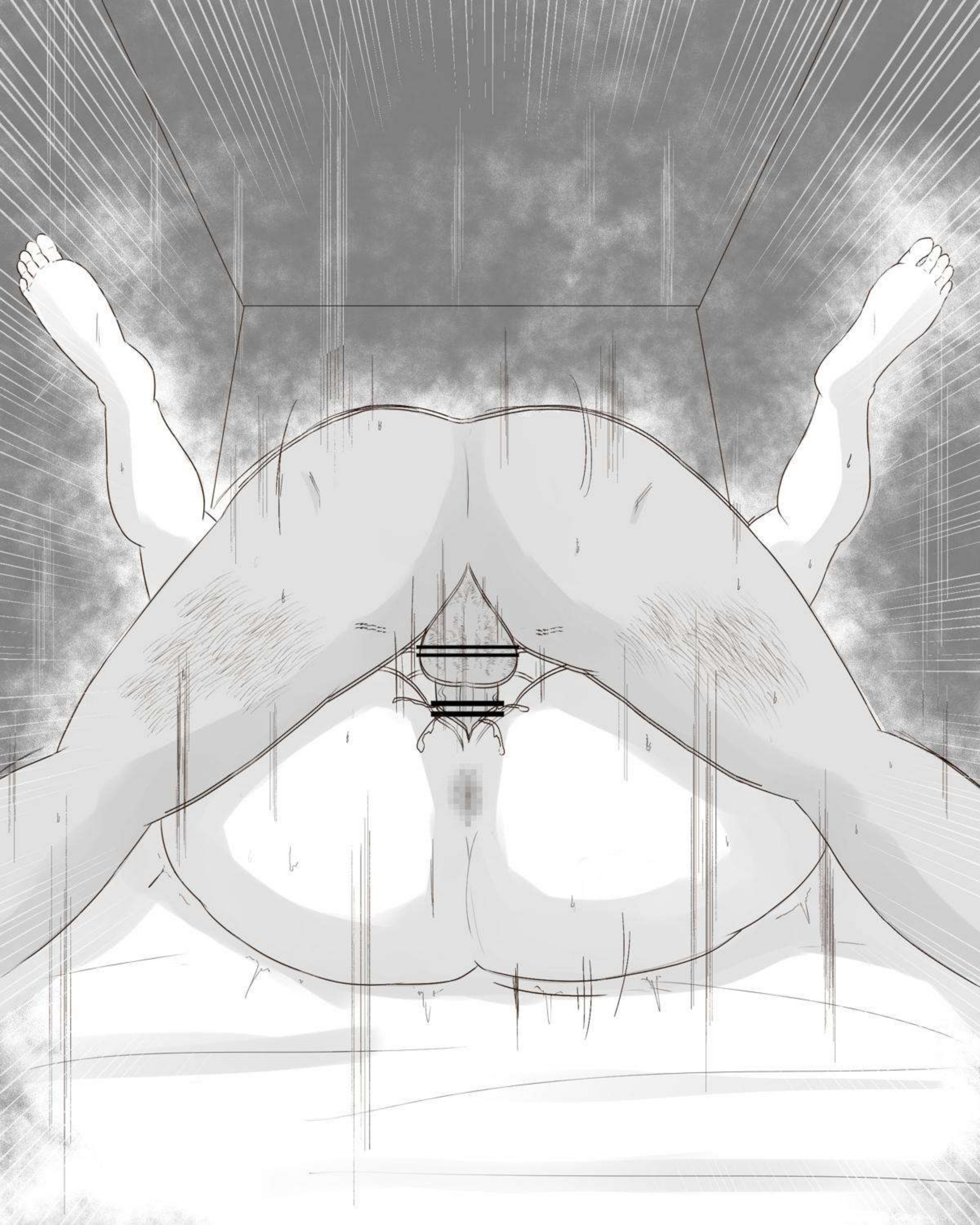


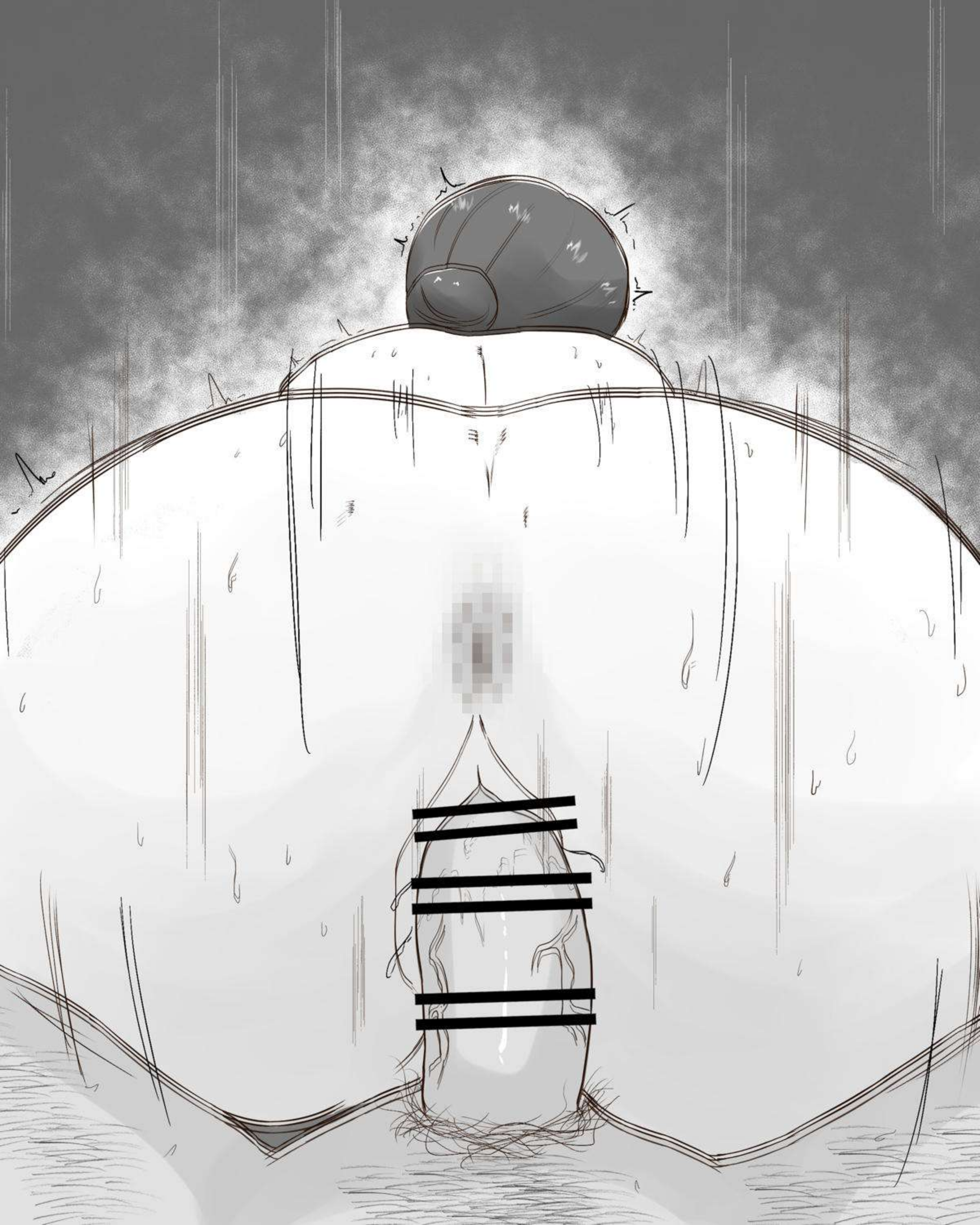




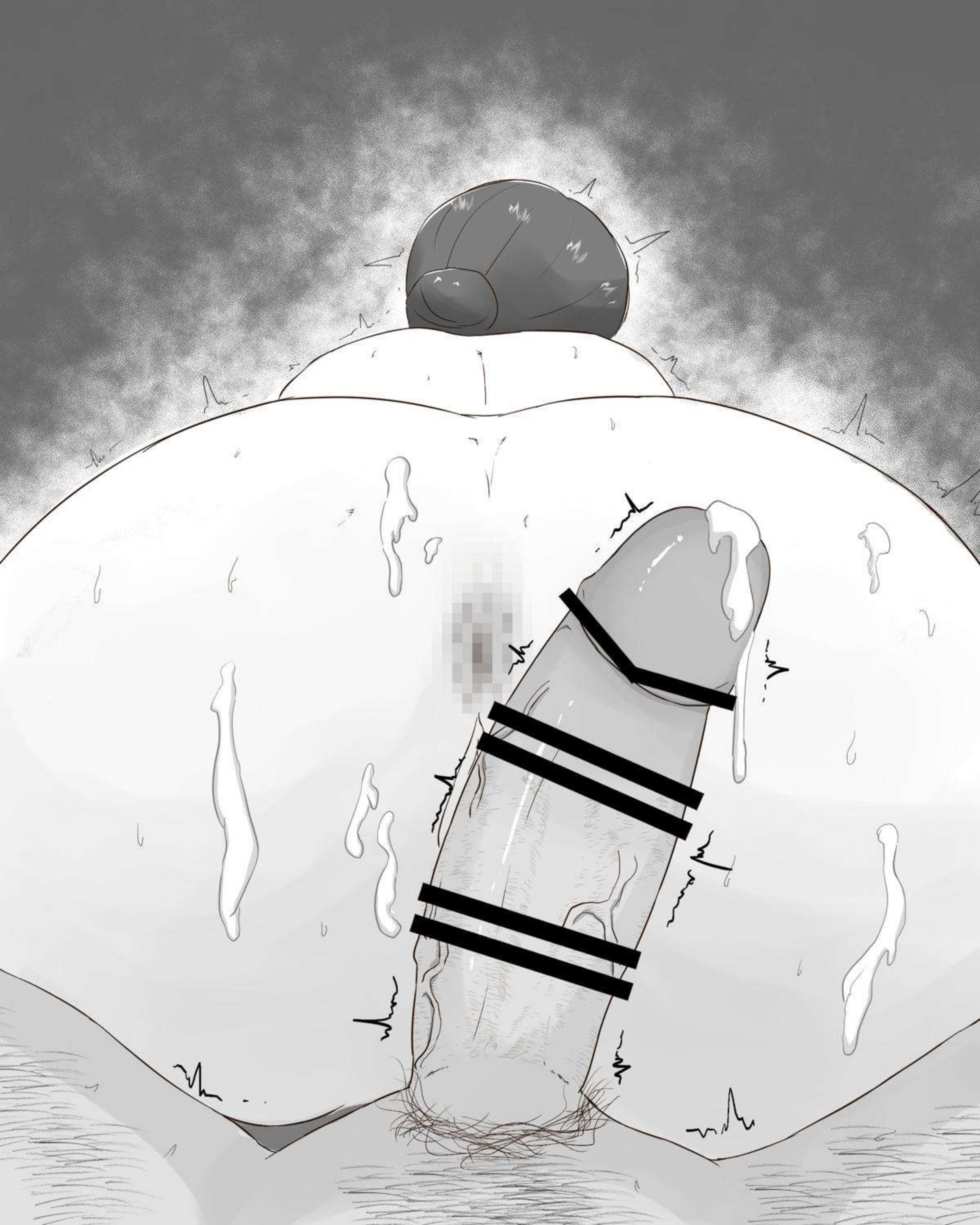


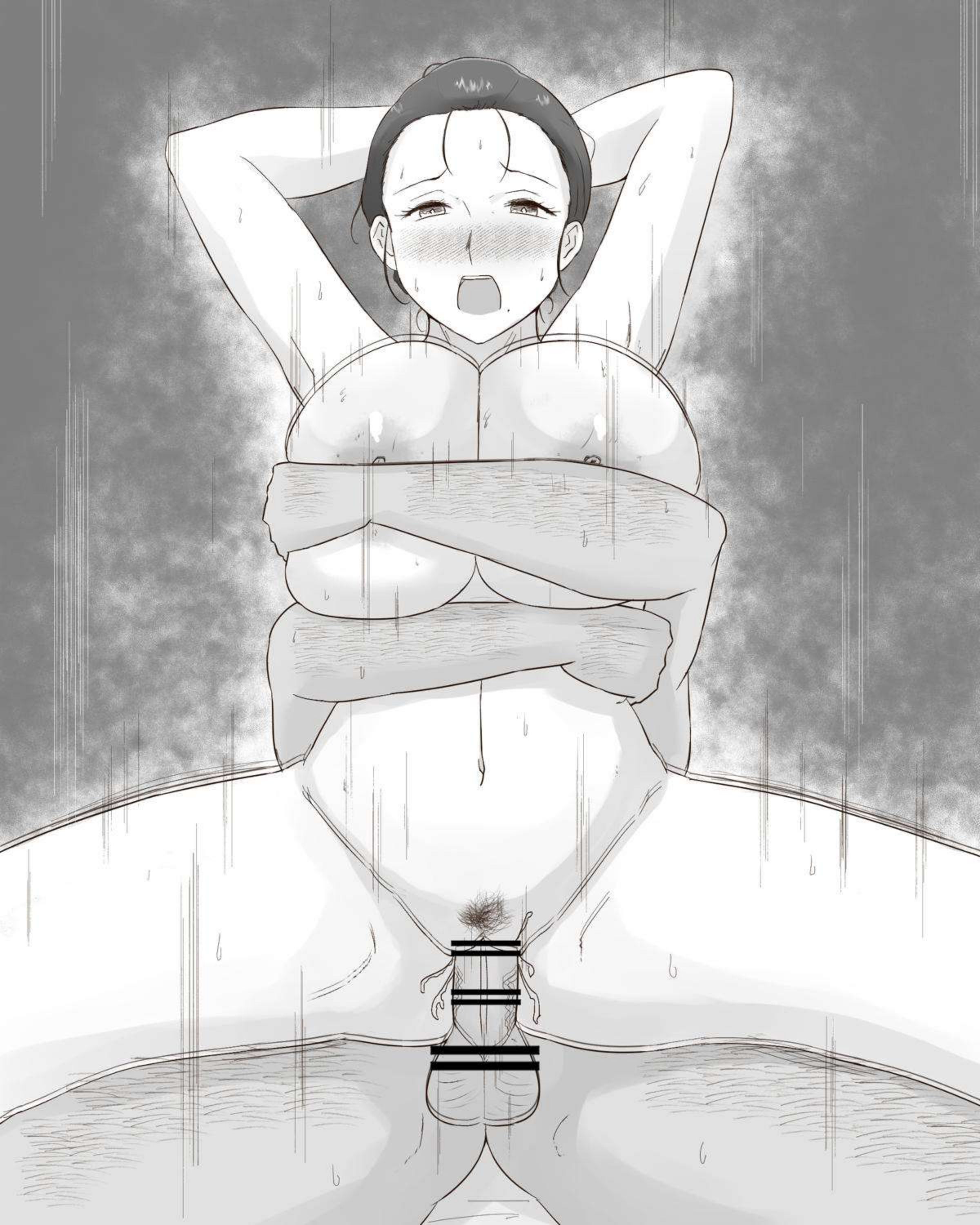
























16 16

16 16

16

16 16

16

16

16

16





























